

#ネオス実績紹介 グラフィックデザイン・WEBデザイン・映像・ブランディングなど、ネオスがお手伝いした事例をピックアップしてご紹介します！

〈WEB〉

Defi WEB サイト

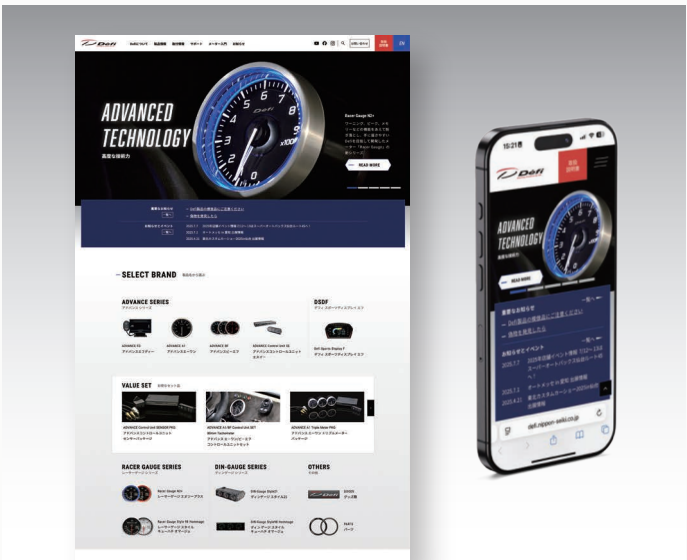
CL：日本精機株式会社

長岡市が誇る自動車やバイクなどの世界的な計器メーカー「日本精機株式会社」のブランド「Defi」は、主に自動車の後付けメーターやディスプレイなどを設計開発しています。この度、DefiのWEBサイトをリニューアルいたしました。プロも愛用する自動車計器で知られるDefiですが、今後新たにプロの方だけでなく、車好き、走り好きな方をターゲットにブランドの裾野を広げるため、サイトデザインの一新、サイトの検索機能の向上、そしてスマートフォンのユーザビリティの改善などを行いました。さらに、撮影や映像にもこだわりが詰まったWEBサイトになっています。これからのDefiの新しい領域へのチャレンジと新展開に目が離せません。

Defi WEB サイト <https://defi.nippon-seiki.co.jp/>



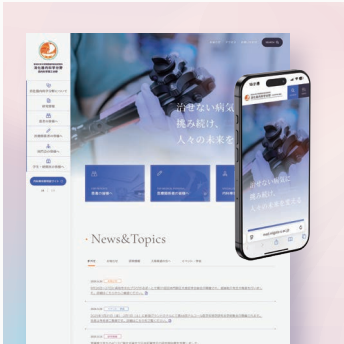
AD・D：新澤圭二 Drone：巻淵章郎・永井一臣 EDIT：斎藤豪海 PL：加藤雄吉郎



〈WEB〉

消化器内科学分野 WEB サイト

CL：新潟大学大学院
医歯学総合研究科
消化器内科学分野



新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器内科学分野のWEBサイトを全面リニューアル。消化器疾患の診断・治療を基盤に、未解明の病態生理の探求や新しい予防・診断・治療法の開発に取り組む研究や活動を、よりわかりやすく、親しみやすくお伝えできるようデザインと構成を一新しました。

〈GRAPHIC〉

新潟味のれん本舗 2025年夏限定商品 パッケージ

CL：株式会社
新潟味のれん本舗

新潟味のれん本舗は、岩塚製菓グループのおせんべい・おかき通販専門店。季節限定商品はパッケージにもこだわり、米どころ新潟の夏を感じるモチーフで季節感を演出。贈り物にも自家用にも選ばれるよう、カタログ誌面で目を引き、魅力が伝わる親しみやすいデザインに仕上げました。



〈GRAPHIC〉

大太平洋特殊鑄造 給装課 製品カタログ

CL：大太平洋特殊鑄造株式会社

大太平洋特殊鑄造 給装課は、埋設給水配管用継手類を製造しています。長年培われた鑄鋼技術を活かし、全国の水道事業体において、未来につながる安全・安心な水環境の実現に貢献しています。ステンレスの質感を丁寧に伝える、信頼感と品質の高さが際立つシンプルなデザインを目指しました。



〈GRAPHIC〉

アオーレ！ ドイツフェスト2025 ポスター・チラシ

CL：NPO法人
ながおか未来創造ネットワーク

アオーレ長岡の初夏を盛り上げる一大イベントであるドイツフェストは、長岡市の姉妹都市トリアー市、友好都市バンベルク市との交流を発信し、ドイツが誇る「食」「産業」「文化」をPRするために2013年から開催されています。ドイツの魅力を感じられて、イベントへと訪れたいくなるポスターを制作しました。



TAKE FREE

Neo spotlight

- ネオ・スポットライト -

vol.003
Summer 2025

Contents

地域を創る、ブランドストーリー / 一般財団法人 長岡花火財団

ネオス実績紹介

日本精機(株) Defi WEBサイト
新潟大学大学院医歯学総合研究科 消化器内科学分野 WEBサイト
(株)新潟味のれん本舗 2025年夏限定商品パッケージ
大太平洋特殊鑄造(株) 給装課 製品カタログ
アオーレ!ドイツフェスト2025 ポスター・チラシ

Design shines a light on
the future of the region.
デザインが照らす
地域の未来



〈PR〉株式会社パートナーズプロジェクトからのお知らせ

「無料ワンストップ相談会」※毎週金曜日：要予約（オンライン相談も受付中！）

●創業・事業承継・M&A ●相続・遺言 ●助成金 など

ご相談には、税理士・弁護士・中小企業診断士・社会保険労務士などの専門家が対応いたします
お問い合わせ、ご予約は **0258-36-2685**（担当：パートナーズプロジェクト 金内）まで

Neo Standard Design Production

NEOS

※Neo spotlightのお問い合わせは
株式会社ネオスまで



WEB



Instagram

「Neo spotlight」はデザインの力で地域ブランドやまだ知られていない地域の魅力にスポットライトを当て、紹介するフリーペーパーです。

地域を創る、ブランドストーリー

一般財団法人
長岡花火財団

長岡の誇りと思いを

のせた花火大会を、

未来につなぐ

#Event Profile

長岡まつり大花火大会

Nagaoka Matsuri Ohanabi Taikai

長岡空襲からの復興を願い、1946年8月1日に始まった復興祭を起源とする長岡まつり。見どころのひとつでもある大花火大会「長岡花火」は、日本三大花火のひとつとして知られています。毎年8月2日と3日に開催され、長岡市民と県内外からのお客様を魅了しています。
<https://nagaokamatsuri.com>

長岡花火には、戦争で亡くなった方々への慰霊・鎮魂と復興への感謝、平和への祈りが込められています。花火大会前日の8月1日22時30分、静かに打ち上げられる3発の「白菊」と呼ばれる白い花火はその象徴。華やかな彩りで夜空を飾るフェニックス、正三尺玉、趣向を凝らした大型スターメインと同じように長岡市民にとって大切な花火です。

花火大会だったのではないのでしょうか。「また始めるぞ!という新たな気持ち、あるいはつらかった時期への回顧かもしれません。見た人の思いを全部受け止めようとする、余白に込めたメッセージが感じられて大好き」だといいます。テーマを決めることで、開催に向けて関係者の意識が同じ方向に向かって一丸となると感じているそうです。1月頃から始まるポスターづくりは、「こちらで大まかなテーマを決め、すぐにネオスさんへ。写真選定、デザインの方向性、いくつかキャッ

チコピー案を出してもらいます。的確に意図を汲んでもらえるので、頼りにしています」という言葉を受けて、アートディレクターであるネオスの山本拓志さんは「社会のことを踏まえてメッセージと一緒にデザインを作って届けている感じがしている。ただの開催告知じゃないところでデザインを楽しんでいます」ポスターを納品して思う、「ここからがスタート」という山本さんの言葉に大きくなずく平林さんの様子から、8月の長岡花火に賭けるお二人の熱い思いが伝わりました。

# 悲しい理由で
長岡花火を終わらせない

日本三大花火のひとつに数えられる長岡花火は、大きな課題に直面しています。知名度や首都圏からの交通の便も良いため、回数を重ねるごとに長岡市に多くの人々が訪れるようになりました。オーバーツーリズム問題です。コロナ禍後の2022年には、密を避け、事故を防ぐために全席有料化にもしましたが、チケットを持たない人も結局は多く訪れてしまっていました。そこで、検討を重ね、厳しい意見を覚悟して始めたのが「来場を抑止する取り組み」です。初回となる昨年は、安全を第一に願った主催者自ら発信した取り組みに、JRやネクスコも賛同、無理して来ないで欲しいという内容を中心に、広告展開しました。広告を見た方から賛否両論あったそうですが、平林さんは言います。

「主催者として、事故や、突発的なトラブルが起きた時に果たして対応できるだろうか、何かあれば長岡まつり自体が開催できなくなってしまう。歴史ある長岡花火が中止になったのは、戦争の時とコロナ禍の時のみ。このような悲しい問題を理由に、私たちの時代で終わらせるわけにはいけないのです」

# ポスターを見た人が
モラルに気づき、考える広告

2025年夏、長岡花火に向けて、とあるポスターが掲出されました。「みんなで守る長岡花火 年に一度のこの時を楽しみにしている人がいる」の言葉と、おばあさんと子どもが見つめる何もない空。どうしてほしいという主催者からの具体的な要望もありません。「これは、すべての人に気持ちよく花火を鑑賞していただくために、モラルについて今一度考えてほしいと訴えるキャンペーンのポスターです。何を伝えたいのだろう、と思うところから見た人に考えてほしいのです」と平林さん。「7月からは映画館などでCMも流れます。親子で映画を見に行った時に、それを見たお子さんがマナーについて気づき、少しでも何かを感じ覚えてもらえたら嬉しいです。また今年は、地元の小学生にもこの問題について一緒に取り組んでもらいました。これらの取り組みの一番の目的は、市民の皆様のためにあります。地域の方々の理解が得られなければ花火大会は開催できなくなります。幸いにもずっと心待ちにして楽しみにしてくださって

ます。地域の方が不快な思いをする問題に対して、誠意をもってひとつずつ改善していくことも、主催者の務めだと思います」と、小さな声にもきちんと向き合いたいと話していただきました。花火大会翌朝は、小中学生を含む多くのボランティアが清掃を行っています。こんなにも地元の人に愛され大切にされている長岡花火を未来につなぐために、マナーを守ることで、観覧客の私たち自身も"守る人"の一員になれるはずです。

少しずつ伝われば、それでいい
ポスターに込めたメッセージ

今年も長岡花火のポスターを目にする機会が多くなりました。2025年は、蒼い夜空に一輪の白菊が咲いています。制作した一般財団法人長岡花火財団の平林さゆりさんにお話を伺いました。「今年は戦後80年、戦争を知る世代が少なくなるなか、あらためて戦争で亡くなった方への感謝を込めて白菊をメインにしました」昨年は中越地震から20年目ということで、復興の象徴でもあるフェニックスとしたように、長岡花火のポスターには、近年、時世を反映した想いを毎年込めているそうです。平林さんの一番のお気に入り、花火が打ちあがる前の観客席の夕景写真を使った2022年のもの。新潟広告賞グラフィック部門優秀賞も受賞し反響が大きかった1枚だそうです。コロナ禍で中止になった翌年、誰にとっても特別な思いで迎えた



2022年
長岡まつり大花火大会 ポスター



一般社団法人 長岡花火財団
新潟県長岡市大手通2-6フェニックス大手イースト長岡
市役所大手通庁舎6F ナビダイヤル 0570-00-8283